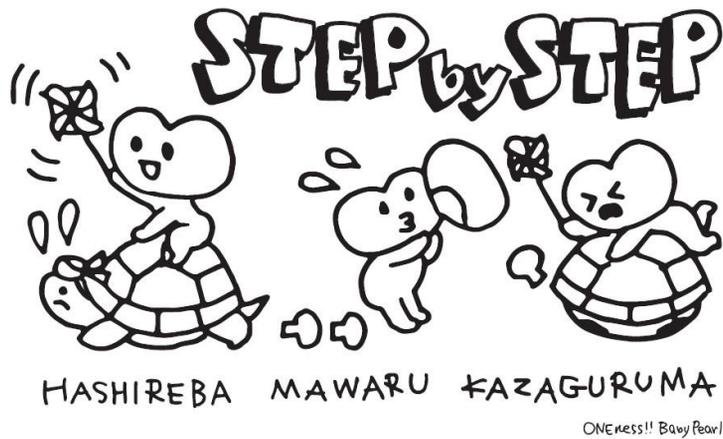
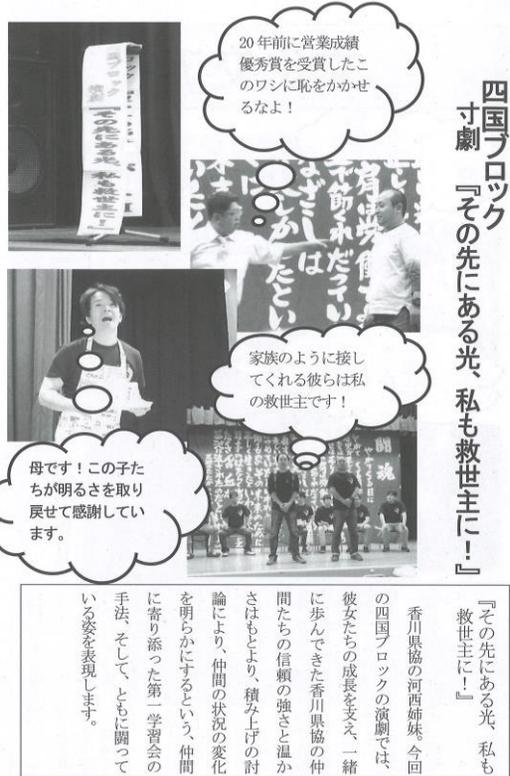


開催に向け準備を進めよう -演劇班始動/Tシャツ完成間近-



(写真左上・右上) 第23回全国交流集会での文化交流(四国ブロック寸劇『その先にある光、私も救世主に!』)の一場面

(写真左下) Baby PearlさんのTシャツデザイン

第2号
2021年11月1日
発行責任者
三木 政孝
編集・記録班

演劇の題目決まる!

この間、新型コロナウイルスの影響により実行委員会が開催できず、小規模でのブロック運営委員会やオンライン会議での情報共有に努めてきました。現在は感染状況が比較的収まっている状況にあることから、今後各専門班が徐々にギアを上げていくこととなります。

今回、その動きの一つとして、来年の全国交流集会で披露する四国ブロック演劇の題目が演劇班から発表されました。タイトルは「その先にある光、私も救世主に!アゲイン」です。この演目は2018年第23回集会の群馬県みなかみで披露された演目のバージョンアップです。河西姉妹の職場での葛藤や香川の仲間との出会い。その温かさと優しさに触れて成長するという内容で、今回、当時の演目を土台に、彼女たちのさらなる成長を詰め込んだ内容を、香川丸亀集會に満を持して全国の仲間の皆さんに披露すべく進めています。乞うご期待ください。

Tシャツデザインも決定!

例年全国交流集会に向けて販売しているTシャツについても、デザインが決定しました。今回は現地実行委員会案を募集し、選考された案を基に、『月刊まなぶ』表紙絵でおなじみのBaby Pearlさんがデザインを完成させてくれました。

テーマは「つまずいても仲間がいる! 亀の一步一步はゆっくりでも、走れば回る風車!」です。カラーは「ネイビー×ピンク」と「ホワイト×グリーン」の2色展開の予定です。かわいらしいデザインですので、ぜひ多くの方に着用いただけたらと思います。



「歴史の始まり
三池闘争に学ぶ」

先日、徳島で三池闘争を学ぶ機会に恵まれた。テーマは、「ただ普通の労働者が、最強とうたわれた三池の労働者に」変貌を遂げたか。

三池労働運動は、人間性の墓場に等しかった炭鉱における囚人労働、差別が蹂躪する職場環境への怒りから始まった。三池労組は「労働者が職場の主人公へ」のスローガンを掲げ、職制支配の排除として、輪番制と生産コントロールを実現した職場闘争から幹部闘争を強化し、ストライキを通じて大衆闘争路線へ移行していく。

歴史は、学習活動を通じて凍土に種子の芽吹きを促した「ホップ」の時期、大衆闘争を花咲かせた「ステップ」の時期、歴史に輝いた「ジャンプ」の時期に分類される。活動家づくりを目的とする学習会と組合員一人ひとりが労働運動への自信と誇りを自覚できる大衆闘争は、運動における車の両輪だ。

その原点となる職場闘争を日常的に追求出来ているかが我々活動家の構えとして問われている。(は)

全国交流集会に向けての取り組み

徳島県協では、前回のニュース第1号でお知らせした友の会連絡会議を開催し、各友の会会員・読者・拡大対象者の具体的な名簿の突き合わせとともに拡大運動への展開を議論しました。

各友の会の実情や課題、仲間への働きかけの苦労などが話されました。実際に仲間の動いている実情を共有できたことで勇気が出たという声や、それぞれの友の会の弱い部分を他の友の会の仲間や他の組織の動きと連携させていくことで補いながらやっていこうという意見も出されました。

**徳島
県協**

**友の会連絡会議を開催し、
実態を持ち寄り、相互討論**

【友の会の報告抜粋】

三好市職友の会 まなぶの敷居が若者には高く受け止められ、月刊まなぶは購読するが、年配の方々による組織の会員になるにはまだ早いという感覚になっている。会員の1人は、東京集会に誘われて演劇をしたのがきっかけ。全国の先輩と話したり、長い時間をかけて今がある。

84友の会 友の会発足から34年。今は阿讃と合同で第一学習会は何とか開催できている。長くこの運動はやってきて縁が切れないうちと思っている。続けるからには展望を持ってあと一歩踏み出す必要性を感じている。

美馬町職友の会 会員は3人。それぞれ顔を合わす機会はあるものの、2019年12月から第一学習会は開催出来ていない。誰が声をかけてやるかというのをみんなが待っているような状況でそのままずるずるきた。やらないかんのはわかっている。ギアを上げていきたい。

徳郵友の会 職場から離れると拡大のターゲットが難しくなる。連合の運動が染みついている若者に対しどのように接していくかが課題。労働者としての意識を持ち続けるための確認作業として、運動の継続が必要。一方で、年配の人にすすめるのも難しい。ただ、運動というより仲間とのつながりから今まで続けてこられて今がある。ただ待っていても拡大はできないので行動あるのみ。

阿讃友の会 毎月友の会ニュースと一緒に配本し、ニュースでオススメ記事を紹介している。配本は東から西へ1日かかりで行っている。6人ほど拡大対象がおり、さらに2人声掛けしたい人がいる。第一学習会ではテーマを決めて取り組んでいる。

日本晴友の会 会員は4人。長く自身の第一学習会が休止のなかで全国交流集会に参加し、動かないと何も変わらないと感じた。その後市議会議員選挙闘争を通じて活気が生まれ、2年前から再開することができた。

まあどんな友の会 職場友の会として、拡大が進まず存続が危ぶまれている。労働者としての話が職場でなされない。職場でのぶつかりがないため、労働者としての視点も育たない。

第27回全国交流集会

と き：2022年6月4日(土) 13時 ~5日(日) 12時

場 所：オークラホテル丸亀（香川県） 参加費：未定



交通アクセス



○高松空港から車で約50分 ○丸亀駅から車で約5分

●空港シャトル便（高松空港から）※完全予約制

0877-22-1112（24時間受付）

お待ちしております